

九州歴史資料館	行事・事業予定
展 示	常 設 展：「歴史(とき)の宝石箱」(第1展示室)(※7月13日(月)～15日(水)・8月31日(月)～9月2日(水)は展示替えのため閉室) 企 画 展：3月10日(火)～5月10日(日) 「古墳から火葬墓へー北部九州における古墳の終焉ー」 3月10日(火)～8月16日(日) 「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」 7月16日(木)～8月30日(日) 「小笠原文庫から見た幕末維新ー武家礼法から近代教育までー」 8月18日(火)～10月25日(日) 「発掘速報展2015」 9月 3日(木)～10月12日(月・祝) 「大宰府史跡みどころ展 Part.1『貝原益軒ー大宰府研究の先賢たちー』」 特集展示：5月19日(火)～7月12日(日) 「モダン福岡を眺めるー没後60年 吉田初三郎の鳥瞰図ー」 パネル展：3月24日(火)～6月14日(日) 「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線」 古代体験：毎週土・日と祝日に、第4展示室で九歴ボランティアによる古代体験実施中(予約不要。有料・無料あり)
	名譽館長講座：全12回の連続講座「近世の朝鮮半島」(申し込み受付は終了しました) 九 歴 講 座：全12回 第2土曜日(第1回～第4回は2月より、第5回～第8回は6月より申込開始。定員160名。定員になり次第締切) 九 歴 セ ミ：4～6月「史料が語る大宰府の歴史」(受付終了)、7～9月「中近世城館研究概論(仮)」(定員50名 要申込、申込多数の場合は抽選) 観(ギャレト)：4月15日(水)・8月19日(水)・9月16日(水)(19:00～20:00、事前申込不要、但し観覧料が必要) 講 演 会：8月 8日(土)企画展「小笠原文庫から見た幕末維新」関連講座(九歴講座)：川本 英紀氏(みやこ町歴史民俗博物館) 8月29日(土)「発掘報告会2015」 9月19日(土)企画展「貝原益軒ー大宰府研究の先賢たちー」記念講演会 イ ベ ント：5月10日(日)福岡県立小郡高等学校琴部 演奏会 7月 5日(日)きゅうれき七夕イベント「コンサート・はたおり体験」など 体験教室等：5月 2日(土)「ぎっちょうで遊ぼう! (仮)」・7月下旬「きゅうれき絵画教室」・8月1日(土)「考古学体験教室2015」 8月21日(金)「なるほど!!こども歴史教室2015」・7月または8月「ナイトミュージアム in 九歴 夏」
発 掘 調 査	大宰府史跡調査(蔵司地区)・県内遺跡発掘調査・4月～9月

求 菩 提 資 料 館	常 設 展：「求菩提修験道の世界」 企 画 展：4月18日(土)～5月24日(日)春の企画展「千傘万華(センノカサマンノハナ)ー論吉の里の和傘づくりー」 ※関連イベント：5月10日(日)抹茶サービス(先着100名様 11:00～15:00) 4月18日(土)～5月24日(日)「ふるさと写真コンクール 入賞・入選作品展」 史跡ガイド活動：申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします。
甘 木 歴 史 資 料 館	常 設 展：「朝倉の考古資料と民俗歴史資料」 春 季 節 展：3月17日(火)～4月5日(日)「あ!さくら展ー春爛漫～桜が主役の作品展ー」 作品展とともに、庭園の桜の花を眺めながら春のひとつときをお楽しみください。 夏季企画展：7月14日(火)～8月30日(日)「筑前東南部の山城」 イ ベ ント：夏休み子ども歴史教室：7月下旬 自主展示会：4月15日(水)～5月6日(水・祝)「平塚川添遺跡公園トンボ玉講座受講生作品展」
柳 川 古 文 書 館	企 画 展：～4月5日(日)「松井家・立石家のおひなさま」 4月8日(水)～5月31日(日)30周年記念「柳川古文書館収蔵名品展Ⅰ」 6月3日(水)～8月 2日(日)30周年記念「柳川古文書館収蔵名品展Ⅱ」 8月5日(水)～9月 6日(日)30周年記念「関ヶ原と立花宗茂」(仮) 9月9日(水)～10月12日(月・祝)30周年記念・九歴移転開館5周年記念展「海西に二巨儒ありー安東省菴の学問」 ※展示替に伴う臨時休館日：4月7日(火)、6月2日(火)、8月4日(火)、9月8日(火) 古文書入門講座：7月に募集予定、8月～9月の土曜日に実施予定(全4回)※古文書を集中して学ぶ初心者のための講座です。

※各館の行事や休館日(閉室)等については、各館ホームページまたは直接お問い合わせください。

福岡県内の指定文化財

御所ヶ谷神籠石[国指定史跡]

御所ヶ谷神籠石は、ホトギ山(標高246.9m)から派生した丘陵に築かれた古代の山城で、二つの谷を取り込んでいます。江戸時代から知られており、貝原益軒は景行天皇の長峽行宮に比定しています。

外郭線は約3kmで、背面となる南側では土塁・列石は確認されていません。城門は7ヶ所想定されており、中門・西門は谷部に設けられた城門です。中門石垣は切石を整然と積み上げており、見る人を圧倒します。第2東門からは7世紀後半頃の土器が発見されており、神籠石の年代を考える上で重要です。また、城内には3間×4間の礎石倉庫が1棟存在します。



御所ヶ谷神籠石中門

九州歴史資料館

KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106
福岡県小郡市三沢5208-3

☎ 0942-75-9575

FAX 0942-75-7834

URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>

◆公共交通機関

《西鉄電車》天神大牟田線・三国が丘駅から徒歩約12分

《JR》鹿児島本線・原田駅からタクシーで約5分

◆自動車

《九州自動車道》筑紫野1.Cから鳥栖筑紫野道路経由で約15分

《大分自動車道》筑後小郡1.Cから国道500号線・県道88号線経由で約15分

《福岡都市高速》水城出口から国道3号線経由で約25分

※駐車場無料



九歴だより

No.41
2015.4

特別史跡大野城跡



大野城跡から南西を望む

大敗します(白村江の戦い)。この敗戦により、唐・新羅の侵攻に備える必要が生じ、664年には水城、そして665年に百済の亡命貴族の指揮の下、大野城・基肄城が築城されました。その後、対馬から畿内に至る各所に山城を築いて防衛体制が整備されましたが、唐・新羅連合軍は来襲せず、以後一度も実戦を経験することはありませんでした。

大野城跡の建物の発掘調査は昭和48年に始まり、昨年度は環境整備事業に伴って増長天地区礎石群を調査しました。増長天地区礎石群は大野城内の最南端の建物群であり、南側内周土塁の内側に位置します。過去の調査により、3間×5間の礎石総柱の建物跡が4棟確認されました。このうち3棟は礎石建総柱に掘立柱がまわる構造であり、後に掘立柱を廃して石組みの雨落ち溝を作り、礎石のみの構造に変化することが確認されました。今回の調査では新たに掘立柱に伴う素掘りの雨落ち溝を確認しましたが、土塁との関係や掘立柱の機能、旧地形の把握など、課題も残されています。

大野城跡の発掘調査は54次を超え、これまで多くの発見がありましたが、城域が広大であるため、未調査の部分が多いことも事実です。築城から1350年を迎えましたが、まだまだ、謎が多い遺跡であるといえるでしょう。



増長天地区礎石群

国内最古級の「導水施設木樋」を発見!

行橋市に所在する延永ヤヨミ園遺跡の導水施設木樋が発見されました。この導水施設は水をろ過して、清浄な水とする装置です。見つかった木樋は全長4.2mで、上流部に彫られた二つの槽で、流れてきた水を2度ろ過する構造となっています。

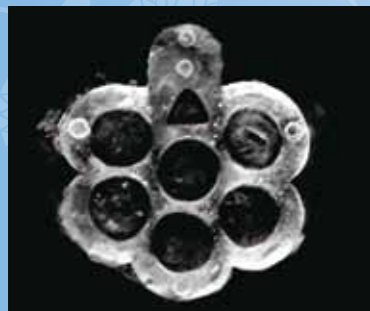
導水施設は、現在近畿地方を中心に見つかっており、奈良県纏向遺跡(3世紀後半～4世紀初頭)などで出現し、5世紀代の資料が多く出土しています。今回出土した木樋の年代を科学分析で調べると、3世紀中頃～4世紀中頃(約1750～1650年前)に伐採された木材を使っていることがわかりました。古墳時代の中では、纏向遺跡に並ぶ、国内最古級の導水施設木樋となります。また、九州内では大分県杵築市御塔山古墳で木樋をまねた埴輪が1点出土しているのみで、木樋としては九州初出土となります。

導水施設の機能については、規模の大きさなどから地域の首長や王が関わったとされ、王権祭祀やカミへの祭りなど様々な説があります。今回の出土例は、「清浄な水を得る」意図は読み取れますが、それが「水」を得ることを対象としているのか、何かしらの行為を行った施設であるのかはわかりません。ただ、遺跡内で首長が祭祀や居住のために造ったとされる、同じ時代の方形区画が見つかることや規模から、首長が行う祭祀行為に用いられたことは間違いなさそうです。



延永ヤヨミ園遺跡 導水施設出土状況

科学分析最前線!



古賀市の船原古墳遺物埋納坑から豪華で国際色豊かな馬具等が発見され、全国的に注目を集めています。平成26年度の発掘調査では新たな遺物埋納坑も発見され、更なる発見や成果が期待されています。当館ではX線CTスキャナによる科学的調査を行っており、その最新情報を3月24日(火)から6月14日(日)までのパネル展で公開します。

金銅装花形杏葉CT画像(古賀市教育委員会蔵)

九歴名品探訪 Vol.4 吉田初三郎の鳥瞰図

吉田初三郎は大正から昭和初期にかけて、日本内外各地で多くの鳥瞰図を描き、大正の広重と称された人物です。彼の作品は美しい絵であると同時に、対象を細部まで描いており、当時の各地の姿を知る貴重な資料でもあります。5月19日(火)～7月12日(日)まで、当館所蔵の作品を一挙に展示する「モダン福岡を眺める」を開催します。



福岡市鳥瞰図(昭和11年)

展示紹介

平成27年度上半期に開催される展覧会

第27回企画展

「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくりー」

会期 3月10日(火)～8月16日(日) 会場 第2・4展示室

当館のマスコットキャラクター「きゅうおに」といっしょに、縄文・弥生・奈良時代へタイムトラベルする展示です。福岡県内の遺跡で発掘された、実際に当時の人たちが作ったものや使っていたものを通して、時代の様子を探ることができます。

第28回企画展

「小笠原文庫から見た幕末維新ー武家礼法から近代教育までー」

会期 7月16日(木)～8月30日(日) 会場 第1展示室

近世の小倉藩主小笠原家。武家礼法や朝鮮通信使への応接に活躍したこの家と藩は、やがて幕末の動乱の時代を迎えていきます。小笠原家の姿と、時代の転換期を懸命に乗り越えようとした人々について、今に伝わる県指定文化財「小笠原文庫」から紹介します。



小笠原文庫に伝わる馬術書「秘伝十六疋」江戸時代 (福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会蔵)

第29回企画展

「発掘速報展2015」

会期 8月18日(火)～10月25日(日) 会場 第2・4展示室

平成26年度に行った県内各地の発掘調査の成果について、最新の出土資料を展示して紹介します。

第30回企画展

「大宰府史跡みどころ展 Part.1『貝原益軒ー大宰府研究の先賢たちー』」

会期 9月3日(木)～10月12日(月・祝) 会場 第1展示室

大宰府研究の先駆者である近世福岡の学者・貝原益軒の業績を、自筆や版本の著作の展示をつうじてふりかえりつつ、青柳種信や伊藤常足の関係資料とあわせて、今日につながる大宰府研究の軌跡をたどります。

特集展示「モダン福岡を眺めるー没後60年 吉田初三郎の鳥瞰図ー」

会期 5月19日(火)～7月12日(日) 会場 第1展示室

本物体験!

「飛び出すむかしの宝物」コーナー

来館者の「もっといろいろなものが見たい」「もっと近くで見たい」「触ってみたい」という要望にこたえるため、お客様が見たい収蔵資料をその場で手に取って見ることができるコーナーを設けました。学芸員が解説しますので、気軽に質問ができるのも魅力の一つです。土・日・祝日限定で、第4展示室で実施しています。

触れることのできる資料は、現在「速報展対応メニュー」「縄文時代メニュー」「戦国時代メニュー」「江戸時代メニュー」「近代メニュー」の5メニュー60セットです。今後も、随時追加・更新してメニューを充実させていきます。

